

令和2年度 第1回 川口市学校給食運営審議会議事録

1 日 時 令和2年10月29日（木）午後3時00分～午後4時00分

2 会 場 川口市役所第二庁舎 地階第1・2会議室

3 出席者

川口市学校給食運営審議会委員 14名（定数15名、うち1名欠席）

嶋根 謙太（学校法人嶋根学園川口しらぎく幼稚園理事長）

伊藤 公介（一般社団法人川口歯科医師会理事）

片山 智之（川口市保健所食品衛生課長）

鈴木 恵子（川口市食生活改善推進員協議会芝西支部支部長）

伊藤 政久（川口市立安行東小学校長）

佐々木 小百合（川口市立戸塚綾瀬小学校長）

須山 恵美子（川口市立里小学校長）

戸谷 弘幸（川口市立南中学校長）

松崎 寛幸（川口市立在家中学校長）

小野 智幸（川口市PTA連合会副会長、川口市立青木中央小学校PTA会長）

千丈 和彦（川口市PTA連合会副会長、川口市立元郷中学校PTA会長）

小木 香（川口市PTA連合会副会長、川口市立八幡木中学校PTA副会長）

高鳥 和裕（公募）

梅本 魔子（公募）

教育委員会事務局 7名（2名欠席）

茂呂教育長、狩野学校保健課長、北川管理係長、大和給食第2係長、阿部指導主事、
内池主査（給食第1係長代理）、高木主事

出席者計 21名

※欠席者 3名

※傍聴者 2名

4 概要

- (1) 開会
- (2) 委嘱書交付
- (3) 挨拶（教育長）
- (4) 自己紹介、会長・副会長の選任
- (5) 挨拶（会長、副会長）
- (6) 議事

事務局より川口市学校給食運営審議会条例第8条第2項に基づき会議が成立している旨の報告後、以下の審議がなされた。

議題1 令和元年度事業報告及び令和2年度事業計画について

学校保健課長が説明。

議題2 令和2年度川口市学校給食実施状況報告について

管理係長、給食第1係主査、指導主事、給食第2係長が説明。

○質疑応答

委員：議題2の9について、給食費の収納率がいずれも99%を超えているとのことだが、額にしてみるとやはり高額に感じる。例年この程度未納額が発生しているのか。督促等対応に苦勞されていると思うが聞かせてほしい。

事務局：未納額については、平成30年度が696万円、平成29年度が677万円となっている。令和元年度は、コロナ禍の影響で例年に比べ給食実施回数が減少していたにも関わらず、未納額が高額となってしまったことは課題であると認識している。

督促については、困窮者へ向けて準要保護児童生徒給食費援助補助金の申請を促しているほか、令和2年度より収納日前日に保護者へメールで収納日を伝える取り組みを開始した。補助金については申請をいただかないと受けられないこととなっているため、その点をご理解いただきたい。

議長：コロナ禍の影響により、学校給食にどのような変化があったか、委員にお聞きしたい。

委員：本校（里小）では、4・5月の給食が休みだったこともあり、6月の給食再開からしばらくは児童の食が細かったように感じた。しかし、段々と調子が戻り、今では完食に近い状態が見受けられる。また、喫食時は、飛沫感染を防止するためグループで向かい合って食べずに全員前を向いて食べている。以前に比べると寂しく感じるが、感染症拡大防止のためやらざるを得ない。他にも衛生面を配慮し、給食当番の体調管理やあらゆるところ

の消毒などを実施している。

食物アレルギーへの対応に加えて、コロナ禍における配慮にも目を向けなければならないが、大変ではあるが、安心・安全を念頭に置き対応している。

議長：事務局から委員へ確認したいことなどはあるか。

事務局：給食の量について、児童生徒により多すぎたり少なすぎたりするところがあると思うが、現場ではどう対応しているのか。残渣を減らすために工夫していることがあればお聞きしたい。

委員：全体の量としては概ね適正であると感じているが、学級によって食べるクラス・食べないクラスの差も感じられる。残渣については、食物アレルギー持ちの児童生徒の増加、児童生徒の小食傾向なども影響していると思う。また、冬場は牛乳の残が増える傾向がある。加えて、コロナ禍の影響で配膳時間が延長し、短い喫食時間がさらに短くなっているため完食することがより難しくなっている。

委員：学級ごとで食べる量がだいぶ違うため、よく食べる学級の児童生徒から校長へ、給食の量を増やすよう直訴されることもある。自校調理校であれば残渣を見て学級ごとに加減してくれることもあるが、センター配送校だと扱う量が多いためそういった対応は難しい。先生方は完食するよう呼び掛けてくれているが、時間が限られているためなかなか達成できない。また、コロナ禍の影響でおかわりも時間を制限して行っており、給食当番は健康チェックやフェイスガードをして配膳している。なお、小学校1年生がおかわりするようになってきたことはうれしく思っている。

委員：残渣に関連して、本校ではカレーライスなどの子供に人気のある献立は完食されがちだが、昔ながらの伝統的な料理などは余りがちになっている。給食で伝統的な料理に触れることで食の文化を伝えることはとても大事なことであり、食指導の一環であるとも考えているため、生徒にはじっくり味わって食べてほしい。

議長：親視点で意見があれば聞かせていただきたい。

委員：子が通っていた小学校では、毎日ショーケースに給食の見本が展示されているのだが、自分たちが学校に通っていたころより品数が少ないのではないかと保護者間で話題になった。また、先日子の通う中学校を訪問した際、子供たちが飛沫感染防止のために喫食時に前を向きとても静かに食べているのを見て、大人よりよほど現状を受け入れているのだなと感心した。

委員：子が中学校に通っているが、味は良くても喫食時間が短いため食べきれな

いと嘆いていた。また、6月の給食再開直後は給食が足りないと不満を漏らしていた。廊下で先生が一人で給食を食べているのも気がかりであると言っていた。

委員：給食の試食会に行ったことがあるが、見た目は少なく見えても食べてみると意外に量が多く感じた。また、残渣量を校内に掲示し、残渣が少ない学級を表彰するなど、学校の工夫を感じられた。

議長：医師の視点から見た本市の給食についてお聞きしたい。

委員：限られた給食費の中で実現するのは大変困難なことだと思うが、もう一品おかずを増やしていただけるとより栄養価の高い食事となるように思う。

事務局：すぐに実現するのは難しいが、いただいた意見を参考に、今後も献立等工夫していく。

委員：議題2の4について、以前本校（青木中央小）の栄養士が「1食単価があと3～4円でも上がると給食の品数を1品増やせる」と言っていたが、単価を上げる予定はないのか。シビアな問題だが、どう考えているか。

事務局：現在の1食単価は、消費税が5%から8%に引き上がった際に設定したものである。単価を上げればそれだけ献立を充実させることができるが、同時に保護者への給食費の負担も増えてしまうため、簡単に値上げする訳にはいかない。本件については、今後も慎重に判断していくので、何卒ご理解いただきたい。

なお、参考として、近隣の1食単価についてお伝えすると、埼玉県のが小学校240円、中学校285円、さいたま市は小学校260円、中学校317円となっている。

(7) 閉会

(以下余白)